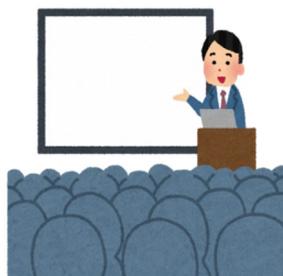


令和6年度 境港市市民活動 推進補助金事業 実績報告集



境港市総務部総合政策課政策企画係

～ 目 次 ～

◎令和6年度採択団体一覧 P 1

◎令和6年度事業実績

(1) 新規設立事業 ・ 一般事業 P 2

(2) 緑化事業 P 13

令和6年度市民活動推進補助金採択団体一覧

	事業名	団体名	総事業費	補助対象額	交付確定額	区分	回数
1	境港おもちゃ病院	境港おもちゃ病院実行委員会	101,086	101,086	100,000	新規設立	1回目
2	第2回境港市民音楽祭	境港市民音楽祭実行委員会	3,294,047	1,632,312	300,000	一般	1回目
3	境港全日本大学選抜ゴミ拾い選手権(仮)開催事業	一般社団法人EDA	4,311,002	2,341,573	300,000	一般	1回目
4	境港子ども落語会	NPO法人元気みなど	440,000	440,000	293,000	一般	1回目
5	食品ビジネス科(課題研究)で地域振興&生徒のSDGs②	境港ベニガニ有志の会	178,086	178,086	89,000	一般	3回目
6	第15回みなどオアシスSea級グルメ全国大会in境港 200日前プレイベント第8回みなどオアシス境港おさかなロード大漁祭	境港おさかなロード大漁祭実行委員会	2,388,000	1,201,800	200,000	一般	3回目
7	佐藤みどり・ドリーさん講演会	みなどまちマーケット実行委員会	255,440	255,440	170,000	一般	1回目
8	鑑賞例会・事前交流会「らふいゆ れふいゆ」	境港親と子どもの劇場	599,344	599,344	153,000	一般	6回目
9	第10回平和のための戦争展	平和のための戦争展境港市実行委員会	212,464	209,096	98,000	一般	9回目
10	松ヶ枝町商店街 竹灯ろうまつり	松ヶ枝町商店街	156,810	151,092	75,000	一般	2回目
11	水辺における安全活動	境港サーフレスキューチーム	47,029	47,029	23,000	一般	6回目
12	しらおの森は花いっぱい	境港市立外江小学校PTA	89,977	89,977	60,000	緑化	19回目
13	花いっぱい運動	境港市立余子小学校保護者と先生の会	75,035	75,035	60,000	緑化	13回目
14	花いっぱいふれあい事業	鳥取県立境港総合技術高等学校(ボランティア同好会)	82,191	82,191	60,000	緑化	18回目
15	松・桜の苗木の購入及び植樹事業	竹内マツ植樹隊	86,900	86,900	60,000	緑化	11回目
16	花いっぱいふれあい運動	上道小学校PTA	99,965	53,030	42,000	緑化	19回目
合計			12,417,376	7,543,991	2,083,000		

区分	件数	補助金額
新規	1件	100,000
一般(初回)	3件	893,000
一般(継続)	7件	808,000
緑化	5件	282,000
合計	16件	2,083,000

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	境港おもちゃ病院			
事業主体	境港おもちゃ病院実行委員会			
補助区分	新規設立事業	団体補助回数（通算）		1回目
補助金額	100,000円	総事業費	101,086円	補助対象額 101,086円
事業内容	<p>【事業内容】 物を大切に作る心を育むため、子どもの大切なおもちゃを地域のドクターたちが無償で修理し、子どもとのふれあいを通して、学びへの興味を持つきっかけづくりを目指した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年4月～令和7年3月（毎月第3土曜日）</p> <p>【実施場所】 境港市民交流センター（みなとテラス）</p> <p>【参加人数】 会員：10人、一般の参加者：373人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。消耗品等が予定より増え、その他予算化していたものについては、スタッフ及びみなとテラスより借り受け、とりあえず活動することができた。次年度当団体で改めて予算化し、購入（制作）を検討している。
事業目的を達成できたか	毎月定例の開催及び来院者や受入件数等、概ね目標としていた内容に至っているとの認識をスタッフで共有している。持ち込まれる件数に制限を設けることなく受け入れることで、些細な要望等へのニーズに応えることができたと考える。また、修理過程を見てもらったり、修理後のおもちゃで遊ぶ光景が多く見られ、一定の達成感を得ることもできた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	広報及び啓発活動が十分とはいえなかったが、複数のメディアが関心を示し取り上げられたことで、幅広い世代の理解を得られた。また、ボランティアとして参加したいとの問い合わせも増え、活動への理解と支援が広がっていくと考える。
事業運営の自立に向けた方針	スタッフのやりがいにも頼る部分も多く、今後は自己資金をどう調達するかが課題となる。スタッフから会費として徴収したり、活動に理解を示し応援して下さる個人や法人等からの寄付を募ったりするなど、検討する必要があると考える。
今後の課題	上記にも記載した資金の安定化は課題であるが、スタッフの経験値を積み、持ち込まれるおもちゃの治療精度を上げ、より多くのニーズに対応できるような体制を整えていく必要がある。しかし、スタッフ一人ひとりがこの活動を通して地域へ貢献しているとの実感を強く感じ、よりやりがいを持って来院者との交流を深めていくことも重視したい。
補助制度についての意見	新規事業を立ち上げるにあたり、大変ありがたい制度である。複数年度を見通した資金計画が立てられる助成制度への発展を期待したい。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	第2回境港市民音楽祭				
事業主体	境港市民音楽祭実行委員会				
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		1回目	
補助金額	300,000円	総事業費	3,294,047円	補助対象額	1,632,312円
事業内容	<p>【事業内容】 1つの会場に多くの市民が集う時間・空間を提供することを目的に、5日間の日程で合唱・軽音楽・ダンス・器楽・声楽・吹奏楽といった多岐のジャンルにわたる音楽祭を開催した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年11月24日（日）、12月7日（土）・8日（日）・21日（土）・22日（日）</p> <p>【実施場所】 境港市文化ホール、みなとテラス</p> <p>【参加人数】 実行委員：14人、出演者：45組、来場者：2,312人</p>				
					

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。日程の追加に伴い、会場使用料が増加した。
事業目的を達成できたか	市民が音楽祭の会場で、音楽やダンスに接した喜びを市民同士で共有する場面と、市内で活動する演奏家の皆さんの発表の場を提供できた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	第1回に比べて、入場者数・出演者とも増加しており、境港市民音楽祭に対する理解は広がっている。
事業運営の自立に向けた方針	境港市民音楽祭の周知を図り、入場料の増加を図る。
今後の課題	出演希望者がさらに増えた場合の出演者選考と音楽祭の日程調整。
補助制度についての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・請求書での補助金支払（全額）を可とすること。（領収書は支払い後提出） ・銀行口座振り込みの写しを支払の照明（領収書）とすること。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	境港全日本大学選抜ゴミ拾い選手権（仮）開催事業				
事業主体	一般社団法人EDA				
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		1回目	
補助金額	300,000円	総事業費	4,311,002円	補助対象額	2,341,573円
事業内容	<p>【事業内容】 全国の大学生などを対象に、境港市の観光と海岸沿いでのごみ拾いを通じて地域の活性化を促すイベントを開催した。参加した大学生たちは市内を観光した後、1組2～3人のグループでゴミ拾いを競った。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年11月16日（土）</p> <p>【実施場所】 JR境港駅～境台場公園、新屋町海岸付近</p> <p>【参加人数】 会員：4人、一般の参加者：60人</p>				
					

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	多くの市民の皆様のご協力をいただき、申請どおり実施できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	大幅に変更した。人件費：謝礼を辞退された方がいた関係で安くなった。交通費：11月は飛行機が満席で大幅に増額した。広報宣伝費：株式会社ASURXの創業特典のため廉価でPRできた。
事業目的を達成できたか	今年掲げた大学生と市民との交流、関係人口の増加、環境保全という事業の目的は達成できた。ゼロからの立ち上げのため、当日までに準備が間に合わなかった部分についても、皆様のご協力のもと、達成できて大変感謝している。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	イベント当日に水木しげるロード振興会が力を貸してくれ、協賛社が集約しきれなかったところ、プレゼント提供やお土産に多大なる協力をしてくれた。参加学生のみならず、市民ボランティアさんや関係者にも「地元の新たな魅力発見」に繋がったと自負している。
事業運営の自立に向けた方針	初回で予定通りにいかなかった点もあり、自分の会社からの借入金と自己資金を事業投入したため経済的に大きく打撃を受けた。来年度は省庁や県の補助金をうまく利活用し、協賛金を集める方針で実施を模索している。また、全国からの学生の応募を増やし、唯一無二のイベントとしての実施を検討している。
今後の課題	今回協賛営業できず、また、協賛を申し出てくれていた企業や個人から目先の運営が忙しく、回収しきれなくて資金難に陥った。そのため、補助金・助成金を上手に使用して一部上場企業など首都圏を中心とした企業からの協賛を集めて開催して全国から学生が集まる体制を整えたい。
補助制度についての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・一度立ち上げたイベントや事業は、年数を重ねて成果を出すことが重要だが、根幹資金が次年度から減少するのは厳しい。せめて3年間事業が安定するまでは30万円以上など、補助金額を増額していただきたい。 ・市内に業者が少なく、市外の業者に頼らざるえない部分があるが、ネット上に情報が少なく大変苦労した。地元企業やサービスの情報を市や商工会で共有して、他県の方が取り組みやすい情報提供ができると手間が省けるので助かる。 ・特殊ノウハウのため、首都圏から呼ぶスタッフの交通費補助があると助かる。 今回、11月飛行機が満席で航空券が取れず、多くの学生やスタッフは、最高値で購入した。変動した交通費に対応する補助が欲しい。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	境港こども落語会				
事業主体	NPO法人元気みなと				
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		1回目	
補助金額	293,000円	総事業費	440,000円	補助対象額	440,000円
事業内容	<p>【事業内容】 日本の古典芸能・文化に親しむ機会を提供し、子どもたちの想像力を養うため、特別授業として落語体験会を実施した。扇子や手ぬぐいを使ったしぐさの実演・解説、落語ネタなどを通して、落語に対する理解を深めた。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年12月6日（金） 午前・午後（計2回）</p> <p>【実施場所】 境公民館、上道小学校</p> <p>【参加人数】 境小学校の6年生：41人、上道小学校の6年生：43人</p>				
					

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	達成できた。特に、しぐさ教室や高座体験の時間を通して、より深く落語に触れ、理解を深めることができた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	日本海新聞社、日本海テレビ、中海テレビに事前プレスリリースで開催を告知した。各社の取材・報道を通じて、広く市民等へ拡散することができた。
事業運営の自立に向けた方針	市内企業からの協賛金などを検討する。
今後の課題	今後も、市や学校や地域コミュニティの協力を仰ぎながら定期的開催し、ゆくゆくは開催校を境港全域に拡げていきたいと考えています。日程調整と予算の確保をどうするのか早急に検討が必要。
補助制度についての意見	このような企画を開催するうえで、特に立ち上げの初期段階において大変ありがたい制度だと考えます。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	食品ビジネス科（課題研究）で地域振興&生徒のSDGs②			
事業主体	境港ベニガニ有志の会			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		3回目
補助金額	89,000円	総事業費	178,086円	補助対象額 178,086円
事業内容	<p>【事業内容】 未来の水産業に関わる人材を育成するため、毎週月曜日にある鳥取県立境港総合技術高等学校の課題研究で、境港サーモンやクロマグロ、マグロの内臓を使った製品等の作成、漁村市の手伝いなどを行った。</p> <p>○課題研究の内容 令和6年4月～7月 マグロ解体、胃袋のレトルト製造 など 9月～12月 赤ちゃんサーモン南蛮漬け、ワカメ石鹸のメディア発表、マグロの中落ちて焼売づくり など 令和7年1月～2月 えのは集会 など</p> <p>【参加人数】 魚食普及班の生徒15人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。急遽、阪神百貨店での実演販売などが決まった。
事業目的を達成できたか	<p>とてもできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動推進補助金のお金で紙芝居を作り、市に寄贈して食育で生かす仕組みをつくった。 ・阪神百貨店での実演販売は、高校の宣伝、街のPR、生徒の経験としてはとても大きく、高校生の力がないとイベントは厳しいと感じた。 ・高校の設備、生徒の人員でマグロの胃袋のレトルトを作成し、11月のSea級グルメで提供できた。 ・原料は私ひとり現場で取るのが難点だが、いつ水揚げがあるかわからないので致し方ない側面がある。 ・「えのは」は、骨（危険）を事前にではなく、見て触り、自分で危険を取り除き、とことん食べ尽くすという昔の人間の食べ方が確立できた。これは水産の街の食育として、とても大きいと思う。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	高校の課題研究の時間と未就学児の時間がなかなか合わないことがもどかしい。
事業運営の自立に向けた方針	アイデアがあっても一人ではできないため、市役所の人手、補助金、高校の手数、設備頼み。
今後の課題	高校の時間＝高校のお金じゃないということが理解されにくいのがもどかしい。
補助制度についての意見	このままでお願いします。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	第15回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in境港 200日前プレイベント第8回みなとオアシス境港おさかなロード大漁祭			
事業主体	境港おさかなロード大漁祭実行委員会			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		3回目
補助金額	200,000円	総事業費	2,388,000円	補助対象額 1,201,800円
事業内容	<p>【事業内容】 海岸通りの賑わいを創出するため、境港おさかなロード大漁祭を開催した。地元の食材や特産品の店舗の出店、太鼓やダンスなどのステージイベント、作業船「はくしゅう」の体験乗船などを実施した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年4月20日（土）、21日（日）</p> <p>【実施場所】 境水道沿い海岸通り</p> <p>【参加人数】 会員：10人、一般の参加者：約18,000人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	概ねできた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	今回の大漁祭は、8回目になり、後援・協賛していただく機関や企業が安定してきた。前回から、高校生・大学生のスタッフが若い力を発揮してくれるようになり、大変な戦力が加わったことも社会的に理解されてきたことによるものだと思う。
事業運営の自立に向けた方針	金銭的には自立しないといけないと思うが、人的支援でも今までいろいろな機関、ボランティアにお世話になっており、今後も元気みなとと共にまちづくりの一つである大漁祭に協力していただきたい。
今後の課題	今回は、来場者の意見や苦情の連絡がなかったが、今後も海岸通りで開催することで、来場者の交通安全、駐車場の数の問題を解消できるように努力しなければならない。
補助制度についての意見	補助制度があって大変ありがたいです。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	佐藤みどり・ドリーさん講演会			
事業主体	みなとまちマーケット実行委員会			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		1回目
補助金額	170,000円	総事業費	255,440円	補助対象額 255,440円
事業内容	<p>【事業内容】 次世代を担う子どもたちが、LGBTの人々に対する理解を深め、誰もが生きやすいまちづくりを行っていくための講演会と、地域活性化と地域の方とのコミュニケーションを図る「みなとまちマーケット」を開催した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年7月28日（日）</p> <p>【実施場所】 境港市民図書館、みなとテラス</p> <p>【参加人数】 会員：15人、一般の参加者：50人（講演会）、テラス入館者数：延べ1,800人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	午前中から賑わい、多様な方に参加していただくことができた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	当日、アンケートなどは準備をしなかったが、参加者からとても良かったと感想を多数いただいた。またこのような機会があれば参加したいとのお声もいただいた。
事業運営の自立に向けた方針	定期的に、社会性のある講演会を実施する。
今後の課題	講演者や出演者にこだわった結果、報酬などの経費が重なった。今後は、収支のバランスがとれるよう工夫したい。
補助制度についての意見	—

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	鑑賞例会・事前交流会「らふいゆ れふいゆ」			
事業主体	境港親と子どもの劇場			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		6回目
補助金額	153,000円	総事業費	599,344円	補助対象額 599,344円
事業内容	<p>【事業内容】 多種多様なメディアにさらされている子どもたちに、感動する心や表現する力を育ててもらうため、無言劇の鑑賞例会を開催した。例会をより深く楽しむために、演者と会員が交流する事前交流会も実施した。</p> <p>【開催（実施日）】 事前交流会：令和6年7月19日（金）・20日（土） 鑑賞例会：令和6年9月22日（日）</p> <p>【実施場所】 事前交流会：境港市保健相談センター 鑑賞例会：みなとテラス 市民ホール</p> <p>【参加人数】 会員：延べ82人、一般の参加者：105人（事前交流会：68人、鑑賞例会：119人）</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	会員のみならず、一般チケットでも予想を上回るたくさんの方に観てもらえたため、目的は達成できました。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	例会作品の内容も良く、観客からのアンケートでは、「子供と普段とは違う体験ができた」などの感想もいただき、私たちの活動を一般の市民にも理解していただけたかと思えます。
事業運営の自立に向けた方針	私たちは会員制で活動していますが、運営資金面では工面が難しく、このような補助金をいただきながら、一般市民の方に私たちの活動を周知、理解してもらう機会を、これからも作っていくように努める予定です。
今後の課題	私たちの活動の一般市民への周知と会員になってもらうお誘い方法、運営資金の工面が、今までもこれからも課題です。
補助制度についての意見	活動への理解をいただき、補助金も高額なので、大変ありがたく思っています。いただいている金額に見合う活動ができるようにスタッフや会員で知恵を出し合いながら活動しています。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	第10回平和のための戦争展			
事業主体	平和のための戦争展境港市実行委員会			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		9回目
補助金額	98,000円	総事業費	212,464円	補助対象額 209,096円
事業内容	<p>【事業内容】 みんなで平和の尊さを考え、戦争の悲惨さを語り継いでいくために、戦争遺品・写真等の展示、「遺骨収集の現場から見える沖縄戦」と題して清水 章宏氏の講演会、戦争体験者による語る会を開催した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年10月26日（土）・27日（日）</p> <p>【実施場所】 境港市民活動センター</p> <p>【参加人数】 会員：110人、一般の参加者：143人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。事情により講師の変更があったため、ポスター・チラシなどの印刷が重なり、予算が増えた。
事業目的を達成できたか	平和の大切さを来場者にも実感していただけたのではないだろうか。アンケートからも多くの声が寄せられたことでその目的が達成できたと思う。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	今回で10回目の開催ができた。アンケートでも市民からの良い評価を頂いた。継続を期待する意見を頂いており、平和を願う主旨を理解してもらい支援も広がっていると評価している。
事業運営の自立に向けた方針	補助金以外の財源は、各団体の分担金による運営を行っていますが、財政基盤が弱いため、とても大変です。
今後の課題	市民のみなさんに今後とも継続して平和の大切さを考えてもらえるよう、そして参加の輪が少しでも大きく広がるよう努力していきたい。
補助制度についての意見	いろいろな市民活動が行われているなか財政的にも弱小な団体もあります。少しでも補助をしていただける制度というものは平和を伝承していくことにとって大変ありがたく貴重なものと考えています。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	松ヶ枝町商店街 竹灯ろうまつり			
事業主体	松ヶ枝町商店街			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		2回目
補助金額	75,000円	総事業費	156,810円	補助対象額 151,092円
事業内容	<p>【事業内容】 商店街の夜の景観づくりのため、竹灯ろうまつりを開催した。竹灯ろうは、会員や多くの市民の方が手作りしたものを、約350本を設置した。また、関連イベントとして、小川 智也氏のマリンバコンサートを開催した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年12月14日（土）・15日（日） ※関連イベントは、15日に開催</p> <p>【実施場所】 水木しげるロード内（松ヶ枝町）</p> <p>【参加人数】 会員：35人、一般の参加者：イベント 100人以上、灯ろう作成 70人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	大幅に変更した。インパクトドライバーの購入について、当初5台を予定していたが、実際には3台となり、備品購入費等が予算よりも減額した。
事業目的を達成できたか	事業目的は達成できた。製作に関わる備品も個人で所有するものがあり、作成に必要な数は揃ったと判断した。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	今年は、一般の市民の方々の参加も多数あり、今後も増えていくように考えている。
事業運営の自立に向けた方針	必要な器材は揃ったため、今後は自己資金で十分賄えると思う。
今後の課題	特に、灯ろう作りの作業に、小・中・高生の参加を増やすことが必要であると思っている。
補助制度についての意見	—

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	水辺における安全活動			
事業主体	境港サーフレスキューチーム			
補助区分	一般事業	団体補助回数（通算）		6回目
補助金額	23,000円	総事業費	47,029円	補助対象額 47,029円
事業内容	<p>【事業内容】 監視・救助活動及び海岸の清掃活動の実施により、地域住民の水辺における安全意識を高めつつ、地元の海に親しむ意識を育んだ。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年7月～8月 監視活動（6回）</p> <p>【実施場所】 境港市佐斐神町 美保湾展望ビーチ</p> <p>【参加人数】 監視員：延べ15人、遊泳者：延べ310人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。資機材購入費、AEDレンタル費について、数千円程度の減額並びに事務費は発生しなかったため、経費が減額した。
事業目的を達成できたか	海辺の監視・救助活動及び海岸の清掃活動を6日間実施した。ライフジャケット着用教室については、8月以降受講要望がなかったため、実施実績はなかった。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	SNSを通して活動状況の周知広報を実施した結果、フォロワー及び「いいね」の数も増加しており、事業内容の理解が広がっているものと思われる。また、地元企業より支援をいただくことになった。
事業運営の自立に向けた方針	今後も、補助金や協賛金による支援を受けつつ、活動を維持、成長していきたい。
今後の課題	境港市で唯一、ライフセーバーの監視下にある本活動場所を市民に広く知ってもらうことが必要と感じる。
補助制度についての意見	ボランティア活動を実施するにあたり、大変有効な制度である。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	しらおの森は花いっぱい			
事業主体	境港市立外江小学校PTA			
補助区分	緑化事業	団体補助回数（通算）		19回目
補助金額	60,000円	総事業費	89,977円	補助対象額 89,977円
事業内容	<p>【事業内容】 「しらおの森」を中心に学校全体をより良い憩いの場とするため、地域ボランティアとともに四季折々の草花を育てた。育てた花は地域にプレゼントし、美化活動に対する意識を高めた。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年5月20日（月）～令和7年3月14日（金）</p> <p>【実施場所】 「しらおの森」及び校内</p> <p>【参加人数】 会員：180人、一般の参加者：児童230人・ボランティア9人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に植物を育てることを通して、いのちの大切さを感じ、育てる楽しさや優しい心を育むことにつなげることができた。 ・活動する中で、身の周りの植物や地域の美化活動への関心を高めることができた。 ・地域や保護者の方に参加していただき、一緒に活動する中で自然豊かな本校や外江の町に誇りや愛着を改めて感じる事ができた。 ・コミュニティ・スクールとしての機能を活用し、保護者・地域の方よりボランティアを募集し、ともに活動を進めていくことで地域と共にある学校の実現に向けての理解と協力を得ることができた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	年間を通して、本事業に関する花ボランティアの皆様や児童の活動は、学校ホームページや学校便りなどで随時アピールしている。また、校区内の各事業所へ花を届けることで、本事業をアピールした。
事業運営の自立に向けた方針	本校児童が普段からお世話になる施設に、季節ごとに花を配ることを通して、花いっぱい運動が、コミュニティ・スクールとして学校と家庭と地域をつなぐより主体的な活動になるように取り組んだ。
今後の課題	花ボランティアとして参加希望を示してくださる方が増えているが、メンバーが固定化している。そこで、より多くの保護者や地域の方へ本事業を拡大し、コミュニティ・スクールとして充実を図っていきたいと考える。
補助制度についての意見	本事業推進には大変資金がかかり、PTAの補助金だけでは不十分である。是非この事業への補助を継続してほしい。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	花いっぱい運動			
事業主体	境港市立余子小学校保護者と先生の会			
補助区分	緑化事業	団体補助回数（通算）		13回目
補助金額	60,000円	総事業費	75,035円	補助対象額 75,035円
事業内容	<p>【事業内容】 植物をはじめとする小さな命を慈しむ優しい心を育てるため、花の苗の育成、植え替え作業、水やりや肥料の管理などを行った。卒業式や入学式に向けて花を育てることを通して、地域ボランティアとの関わり合いを深めた。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年5月21日（火）～令和7年2月27日（木）</p> <p>【実施場所】 学校中庭・前庭</p> <p>【参加人数】 会員：187人、一般の参加者：25人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	できた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に来ていただき、学校とのつながりが深まった。 ・学校が花でいっぱいになり、華やかな雰囲気を作ることができた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	保護者の方や地域の方々に参加していただき、一緒に花を植える意義を感じていただいた。また、育てた花を贈呈することで、感謝の言葉を沢山いただいた。
事業運営の自立に向けた方針	PTA会員の人数が減少傾向にある。地域の方へ、参加の呼びかけを大事にしていきたい。
今後の課題	児童の考えや想いが、事業の中に反映された取組になっていくようにしていきたい。
補助制度についての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校を結びつける機会をいただいている。 ・コミュニティスクールを推進する上で、ありがたい制度である。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	花いっぱいふれあい事業			
事業主体	鳥取県立境港総合技術高等学校 ボランティア同好会			
補助区分	緑化事業	団体補助回数（通算）		18回目
補助金額	60,000円	総事業費	82,191円	補助対象額 82,191円
事業内容	<p>【事業内容】 年間を通じて、学校周辺の緑化活動を実施し、地域との交流を図った。「はるかひまわり絆プロジェクト」では、校内や市民図書館などで植栽したり、収穫した種を余子小学校や総合技術フェアなどで配布した。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年5月～令和7年2月</p> <p>【実施場所】 校内、余子公民館、市内高齢者施設ほか</p> <p>【参加人数】 福祉科1年～3年：63人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	ほとんど同じ。
事業目的を達成できたか	福祉科全学年が活動に参加し、目的は概ね達成できた。特に5年目となる「はるかひまわり絆プロジェクト」の活動は年々地域へ周知され、活動への協力を通じて校内外、幅広い世代や立場の方と繋がる機会となっている。また本年は、ひまわりを植え育てるといった活動にとどまらず、植栽を通じて地域の防災活動にも目を向け、地域とつながり、福祉科高校生の視点で地域に働きかける活動にも少しずつ取り組むことができた。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	地域指導者、市役所、図書館、公民館、青年会議所、社会福祉協議会などからの理解協力を得て、協働して事業を実施することができた。また、事業実施の際にはポスター作成や活動成果の校内掲示、公式Instagram等を活用して情報発信なども行い、会員以外の多くの人に活動を知ってもらえるような工夫をした。
事業運営の自立に向けた方針	花苗や資材費が高騰しており、活動規模を拡げることは難しい面もあるが、内容等を工夫し、ボランティア同好会活動費等で可能な限り活動を継続したい。活動当初の生徒の願いや花植えを通して「福祉のまちづくり」を行う視点を風化させないために社会情勢や生徒実態に応じた効果的な活動のあり方を考えていきたい。
今後の課題	福祉科生徒（会員）数の減少、課外活動への生徒意識の変化等から日程や活動形態を工夫しなければいけない場面が多く、実活動時間や範囲を拡げることが非常に難しくなっているため、活動内容を精査する時期に来ていると感じている。福祉科内の活動にとどまらず、可能な限り地域の協力を仰いだり、他科や生徒会、PTA等と連携しながら、全校生徒がかかわる活動へと発展させる方策を考えたい。来年度は、まっぼっくり事業所と「はるかひまわり絆プロジェクト」に取り組む予定にしている。
補助制度についての意見	来年度も継続していただきたい。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	松・桜の苗木の購入及び植樹事業			
事業主体	竹内マツ植樹隊			
補助区分	緑化事業	団体補助回数（通算）		11回目
補助金額	60,000円	総事業費	86,900円	補助対象額 86,900円
事業内容	<p>【事業内容】 かつての美しい白砂青松の景観を取り戻し、子孫に残すため、竹内西緑地の除草作業、凹凸地や支柱の整備、松の植樹などを行った。また、クルーズ船を迎える「海の玄関」にふさわしい景観にするため、桜並木の整備を行った。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年5月21日(火)～令和7年3月10日(月)</p> <p>【実施場所】 竹内西緑地</p> <p>【参加人数】 会員：54人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。当初予定していた苗木は、松の苗木100本と桜の苗木は10本であったが、枯れ松が少なく、30本の補植で済んだため、松の苗木を100本⇒30本に変更した。
事業目的を達成できたか	今回予定していたことは概ねできたが、敷地の凹凸地の整地が計画したほどできなかった。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	HPでの報告や事業報告用チラシ等で徐々に認知されていると感じるが、会員になって共に作業をするところまではいかない（会員が増えない）。一方、整地するために大量に必要な土砂は、公共残土（管理組合、境港市役所）を入れて頂いている。
事業運営の自立に向けた方針	なかなか自立はできないが、今後管理上必要な乗用草刈り機（大型の機種）を購入するための資金調達法を検討する。4～5人で管理できる環境を作る。
今後の課題	敷地全般の凹凸地の整地と桜木が十分に育つための土壌改良を行いたい。
補助制度についての意見	申請書類の簡素化が必要。一律で行うと間口が狭まるため、補助金の金額によって内容を検討した方が良いと思う。

令和6年度 市民活動推進補助金実績報告

事業名	花いっぱいふれあい運動			
事業主体	上道小学校PTA			
補助区分	緑化事業	団体補助回数（通算）		19回目
補助金額	42,000円	総事業費	99,965円	補助対象額 53,030円
事業内容	<p>【事業内容】 植物を育てることの楽しさや喜びを味わい、花作りを通して地域の美化活動への関心を高めるため、児童が保護者や地域の高齢者と交流しながら、花の苗の植え替え作業や水やりなどを行った。</p> <p>【開催（実施日）】 令和6年6月10日（月）～令和7年3月17日（月）</p> <p>【実施場所】 上道小学校とその周辺</p> <p>【参加人数】 会員：児童・職員296人、一般の参加者：地域の方5人・保護者5人</p>			
				

自己評価	
事業は申請どおり実施できたか	概ねできた。
予算書と決算書の活動費の内訳	多少の変更があった。パンジーの花の苗が値上がりした。
事業目的を達成できたか	本事業の主となる活動は、保護者と地域の高齢者と一緒にする花の苗の植え替え作業(11月)である。その花を飾る舞台は卒業式と入学式に設定している。また入学式後に、保護者や地域の方々への啓発を兼ねて花の鉢の持ち帰りを行うところまでが事業である。最終目的までは、まだ到達していないが、花の栽培は継続中で生育も良好なので、このまま事業の目的を果たせるものと期待している。
事業に対する社会的理解・支援が広がったか	本事業の予算を使って、継続的に玄関前や道路脇、中庭の植物の維持管理も行っている。学校公開日等での意見でも、玄関の花壇が美しいとの評価をいただいている。11月のPTA主催による植え替え作業に参加して下さる保護者の方は昨年よりも多かった。市の助成金を受けていることを、花の持ち帰りを依頼する文章の中で伝えることができた。
事業運営の自立に向けた方針	学校という公の施設での緑化活動であるので、今後も継続的に助成をお願いしたいが、難しい場合でもPTA予算でやりくりし、同程度の緑化事業は維持していきたいと考えている。
今後の課題	花の栽培を職員と児童が行っている。コミュニティ・スクールとして、地域や保護者の方々に花の育成や世話をさせていただくことも今後考えていきたい。
補助制度についての意見	補助制度を活用していることを広く知らせるため、学校では保護者に文章等で活動を知らせることを考えている。公民館等を通して、地域の方にも広く知らせることができないか考えているところである。